

重症熱性血小板減少症候群(SFTS)の発生について

市内において、重症熱性血小板減少症候群(以下「SFTS」という。)(4類感染症)の発生届がありましたので、北九州市感染症公表要領に基づきお知らせいたします。

1件目 ※2件目との関連はありません。

- 1 概要** 令和6年5月22日(水)、市内 B 医療機関(小倉北区)から北九州市保健所に重症熱性血小板減少症候群(SFTS)により死亡した患者の届出があった。
- 2 患者情報** 小倉南区在住、80代、女性(虫に咬まれたかは不明)
- 3 経過**
 - 5月12日(日) 腹痛、嘔気、食欲不振あり。
 - 5月13日(月) 下痢、発熱のため、A 医療機関受診。
 - 5月14日(火) 全身倦怠感のため、B 医療機関受診し、入院となる。
血液検査実施。血小板減少、白血球減少等あり。
 - 5月20日(月) 死亡。
 - 5月21日(火) 北九州市保健所に検査依頼あり。
 - 5月22日(水) 北九州市保健環境研究所で検査実施。
検査の結果、SFTS 陽性判明。
- 4 現在の状況** 死亡
- 5 感染原因** 不明
- 6 行政対応** 家族に対する健康調査の実施

2件目 ※1件目との関連はありません。

- 1 概要** 令和6年5月22日(水)、市内 D 医療機関(門司区)から北九州市保健所に重症熱性血小板減少症候群(SFTS)の届出があった。
- 2 患者情報** 門司区在住、70代、男性(虫に咬まれた痕を確認)
- 3 経過**
 - 5月11日(土) 倦怠感あり。
 - 5月13日(月) 発熱(38℃台)あり。
 - 5月14日(火) 発熱(38.2℃)、筋痙攣のため、C 医療機関受診。
 - 5月19日(日) 症状継続のため、D 医療機関受診し、入院となる。
 - 5月21日(火) 血液検査実施。血小板減少、白血球減少等あり。
北九州市保健所に検査依頼あり。
 - 5月22日(水) 北九州市保健環境研究所で検査実施。
検査の結果、SFTS 陽性判明。
- 4 現在の状況** 入院中

5 感染原因 不明

6 行政対応 家族に対する健康調査の実施

7 重症熱性血小板減少症候群(SFTS)の北九州市への届出状況(単位:人)
(令和6年5月23日現在)

	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
発生届出数 (単位:人)	1 (死亡1名を 含む)	0	0	0	0	3 (本件含む)

8 その他

- 患者及び家族等の個人情報については、プライバシー保護の観点から、提供資料の範囲内にさせていただきます。ご理解の上、特段のご配慮をお願いいたします。
- 本市においては、別添「《重症熱性血小板減少症候群(SFTS)について》の予防のポイント」について市民の皆様呼びかけています。
報道各位におかれても、別添の内容の周知にご協力いただきますようお願いいたします。

《重症熱性血小板減少症候群(SFTS)について》

➤重症熱性血小板減少症候群(SFTS)とは

「重症熱性血小板減少症候群(Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome: SFTS)」は、主にウイルスを保有しているマダニに刺されることにより感染するダニ媒介感染症です。感染症法では四類感染症に位置付けられています。

すべてのマダニがこのウイルスを持っているわけではありません。また、このほかにも、マダニが媒介する感染症には、日本紅斑熱やライム病が知られています。

※マダニとは

- ・マダニはマダニ科のダニ類の総称で、食品等に発生するコナダニ類や衣類や寝具に発生するヒョウヒダニ・ツメダニ類など、家庭内に生息するダニとは種類が異なります。
- ・マダニ類は、固い外皮に覆われた比較的大型(種類にもよりますが、成ダニでは、吸血前で3～8mm、吸血後は10～20mm程度)のダニで、主に森林や草地に生息していますが、市郊外、市街地でも生息しています。

➤ 症状

ウイルスを保有するマダニに咬まれた後、6日から14日程度の潜伏期間を得て、発熱、倦怠感、食欲低下、消化器症状、リンパ節腫脹、出血症状を起こします。

時に頭痛、筋肉痛、神経症状(意識障害、けいれん、昏睡)、リンパ節腫脹、呼吸器症状(咳など)、出血症状(紫斑、下血)を起こします。

➤ 感染経路

ウイルスを有するマダニに刺されることにより感染します。患者や遺体の血液や体液等との直接接触が原因と考えられるヒトからヒトへの感染も報告されています。咳やくしゃみなどを介した飛沫感染や空気感染の報告はありません。

また、ネコやイヌが SFTS ウイルスに感染するとヒトと同様に発熱や食欲不振等の症状を呈することがあります。ネコに咬まれたことが原因で SFTS ウイルスに感染した事例も報告されています。ただし、健康なネコやイヌ、屋内のみで飼育されているネコやイヌからヒトが SFTS ウイルスに感染した事例の報告はありません。

➤ 予防のポイント

- ・マダニに咬まれないようにすることが重要です。特にマダニの活動が盛んな春から秋にかけては注意しましょう。
- ・草むらや藪など、マダニが生息する場所に入る場合には、長袖、長ズボン、足を完全に覆う靴を着用して肌の露出を少なくしましょう。
- ・屋外活動後はマダニに刺されていないかを確認しましょう。

マダニに咬まれたら

マダニ類の多くは、人や動物に取り付くと、皮膚にしっかりと口器を突き刺し、長時間(数日から、長いもので10日間)吸血します。

吸血中のマダニを見つけた場合は、自分でとろうとせず、できるだけ医療機関(皮膚科)で処置しましょう。(無理に引き抜こうとすると、マダニの一部が皮膚内に残ってしまい、化膿することがあります。)

マダニに咬まれた後に、発熱等の症状があった場合は、医療機関を受診しましょう。その際、マダニに刺されたことを医師に説明して下さい。

「ダニ」にご注意ください



山や草むらでの野外活動の際は、ダニに注意しましょう



春から秋にかけてキャンプ、ハイキング、農作業など、山や草むらで活動する機会が多くなる季節です。

野山に生息するダニに咬まれることで

重症熱性血小板減少症候群(SFTS)、ダニ媒介脳炎、日本紅斑熱、つつが虫病、ライム病などに感染することがあります。

ダニに咬まれないためのポイント！

●肌の露出を少なくする

⇒帽子、手袋を着用し、首にタオルを巻く等

●長袖・長ズボン・登山用スパッツ等を着用する

⇒シャツの裾はズボンの中に、ズボンの裾は靴下や長靴の中

●足を完全に覆う靴を履く

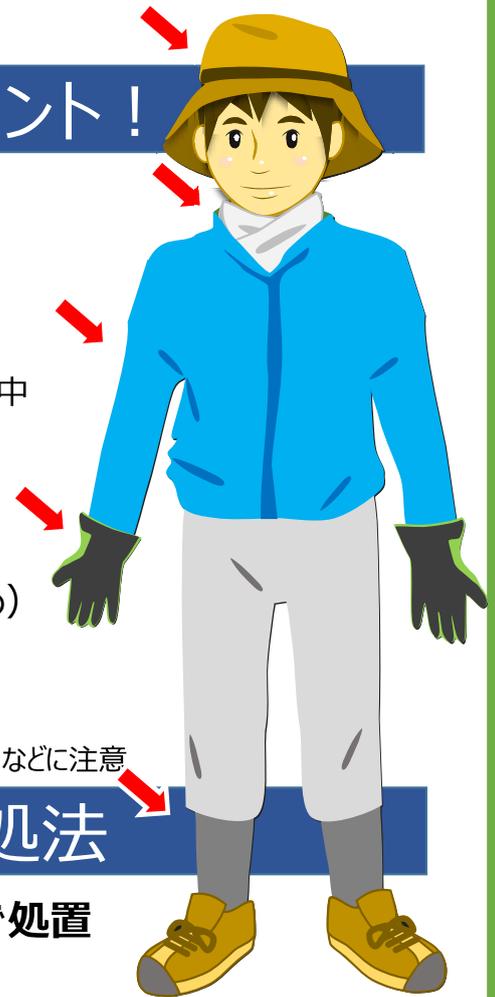
⇒サンダル等は避ける

●明るい色の服を着る（マダニを目視で確認しやすくするため）

* 上着や作業着は家の中に持ち込まないようにしましょう

* 屋外活動後は入浴し、マダニに咬まれていないか確認をしましょう

特に、わきの下、足の付け根、手首、膝の裏、胸の下、頭部（髪の毛の中）などに注意



ダニに咬まれたときの対処法

●無理に引き抜こうとせず、医療機関（皮膚科など）で処置（マダニの除去、洗浄など）をしてもらいましょう。

●マダニに咬まれた後、数週間程度は体調の変化に注意をし、発熱等の症状が認められた場合は医療機関で診察を受けて下さい。

【受診時に医師に伝えること】

①野外活動の日付け、②場所、③発症前の行動



ダニ媒介感染症（厚生労働省）

各地域のダニ媒介感染症の状況については各自治体HPも参考にしてください

